

自己評価				学校関係者評価		
学校運営計画 (4月)				評価 (総合)		
学校運営方針	<p>【基本方針】 本校教育の根幹を成す「世のため、人のため」の精神のもと、本校独自の館風「質朴剛健、不羈独立、自由闊達」をもつ修猷文化であたたかく育み、社会の変化や生徒の実態に機動的に対応する体制を確立し、一人ひとりの生徒が未来社会を切り拓くために求められる資質・能力の育成を推進する。</p> <p>【長期目標】 1 「全人教育」を中心に捉えた教育活動の実践 (1) 後世に文化を継承していく使命と責任を自覚し、知性と感性が調和した人間力豊かで実践的行動力をもつ生徒を育成する。 (2) 内面的自覚を促し、節度ある生活の中で礼儀と倫理観を育てるとともに、正義感をもって主体的に行動し、自らの責任を果たす生徒を育成をする。 (3) 日本の公教育の強みを生かした教育活動を推進し、福岡県・日本を代表する高等学校としての在り方を生徒、教職員ともに追究する。 2 次代の国際社会や日本を担う人材、グローバル・リーダーの育成 (1) 社会的な視座に立つ教育活動を展開することにより、世界の現実を直視し、自己の使命を果たそうとする高い志と国際的素養を持った生徒を育成する。 (2) 生徒の可能性を伸ばし、主体的に進路を選択できる能力・態度を育むことで、10年後・20年後の自己実現に結びつけられるよう支援する。 3 教育における先進性と地域における教育の役割を見据えた改革の推進 (1) 知識と技能の習得、思考力、判断力、表現力の深化、学びに向かう力と人間性の伸長を促すとともに、求められる資質・能力を社会と共有し連携する「社会に開かれた教育課程」を実践する。 (2) 地域の小学校、学習塾等と連携し、小学校及び小学生の保護者向けの広報活動を充実させ、地域のニーズを踏まえた新たな教育実践を創造する。</p>			A	A	<p>自己評価は</p> <p>A 適切である</p> <p>B 概ね適切である</p> <p>C やや不適切である</p> <p>D 不適切である</p>
	<p>昨年度の成果と課題</p> <p>「世のため 人のため」の本校の精神を推し進めながら、生徒の主体的な学びの機会を広げることができたと考える。これは継承されてきた本校独自の教育実践をおとて、個性の伸長や人間的な成長が図られた成果である。今年度も継続して、主体的・対話的で深い学びを充実発展させるとともに、昨年度からスタートした新教育課程に関する評価や時制などを検証しながら、適切に対応したい。また、広報活動等を充実させ、本校の教育活動を小学生や中学生、その保護者を中心とした地域の方々に理解していただきたいと考えている。さらに、「Team」の充実を図り、職員が自分の所属する分掌意外にも視野を広げるよう促している。本年度も昨年度同様継続すべきところは継続したい。</p>	<p>年度重点目標</p> <p>1 組織機能の活性化</p> <p>2 違いや骨太の生徒育成 (「修猷を誇るな、修猷が誇る人となれ」)</p> <p>3 教師としての使命を果たす</p>	<p>具体的目標</p> <p>(1) 組織マネジメントの充実に向け、校務分掌・学年の業務を精選し、多様な人材活用によりミドルリーダーを育成する。併せて、多様化・複雑化する課題に対し学年・分掌を超えた「Team」を結成し、その解決に努める。 (2) カリキュラムマネジメントの充実のため、新学習指導要領に対応して変更した教育課程、学習評価法、時制等の検証・改善を行うとともに、前期の区切り「大運動会」・学年の総仕上げとなる後期の「大文化祭」の二大行事を軸に、学校暦の更なる充実を図る。</p> <p>(1) 修猷アイデンティティ (自治的・主体的行動、文武両道、豊かな知性、知の総合、豊かな人間性の涵養) と実践的行動力 (進しさ、創造性、協働性、リーダーシップ、フォローアップ、自浄力) を育成する多様な場や仕掛けを設定する。 (2) 「知性の刺激、失敗を恐れない学び、誇りの文化」等、人と人とのかかわりの中で学ぶ修猷文化を活用し、生徒の未来を切り拓く多様な資質・能力を伸ばすために、挑戦、自他の個性の理解、命の大切さ、自尊感情・人権感覚、誇りと自信を重んじながら、成年年齢引き下げ等にも適切に対応する。</p> <p>(1) 本校が目指す生徒を育成するために、教師一人ひとりが各自のこだわり・個性を最大限発揮し、生徒に「根拠ある自信」とともに「根拠なき自信」や挑戦への意欲を持たせる等、自らが修猷文化を醸成するとの自覚を持つ。 (2) 自ら進んで研究と修業に努め、教養・幅広い知識・専門性の向上を図る。特に深い学び、ICTを取り入れた新たな学びを駆使し、上質の授業を展開する。</p>			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題		
教務部	教務課	1 生徒一人ひとりの力を伸ばさせるための体制構築と授業・評価法の工夫・改善を行う。	(1) 教師一人ひとりが各自の個性を発揮した質の高い授業を行えるよう支援し、生徒の学びに向かう力を高める。 B (2) 各学年と連携・協力して生徒個々への対応を強化することで、生徒の学力の底上げを図る。 B	A	<p>昨年度から時制・教育課程・成績処理の運用など様々な点が変わり、今年度はそれらを適切に運用しつつ、改善を図った。その中で新たな課題も散見されたため、次年度以降にも引き続き検証・検討を進めていく必要がある。新教育課程や個別評価の導入に伴い、生徒に対する教師の支援が適切であるかを検証することが重要ではないか。また、次年度はデジタル採点システムを本格的に運用する予定である。</p>	
		2 昨年度より変更した教育課程・学習評価・時制を、本校の現状や課題に対応しながら適切に運用する。	(1) 新しい教育課程・学習評価・時制について、課題を整理し対応しつつ、より良いものがないかの検討も進める。 A (2) 年間授業時数と時間割の調整・工夫により、教員・生徒の「時間」の確保に努める。 B			
		3 教員の負担軽減に向けて、様々な面でより業務の効率化を推進する。	(1) 統合型校務支援システムと本校独自のシステムの併用により、担任業務の効率化を図る。 A (2) 統合型校務支援システムの他校の活用状況と本校の運用方法について研究する。 A			
	庶務課	1 校内の教育環境の整備を充実させ、教育活動の充実と発展に寄与する。	(1) 校内備品の管理と整備を適切に行い、教育環境の向上をはかる。 A (2) 生徒が教室整備等に主体的に関わり、物を大切にする姿勢を身につけさせる。 A	A	<p>本年度は、儀式や行事においてコロナ禍がある程度落ち着いたことで、以前の形式に戻すものが多かった。その中で、儀式での人数制限やスタイルの変更、消毒液の設置など、この3年間の経験を元に変更した部分もあった。伝統の良い部分を残しつつ、時代に合わせて変更することでよりよいものを作る基礎ができたかと思う。次年度は、今年度残した課題を関係各署と話し合いながら、全体の負担を減らしつつ、生徒の成長につながることを最優先に活動していきたい。</p>	
		2 本校の儀式的行事の意義と伝統を踏まえた計画の作成や運営を行う。	(1) 関係各署と連携を密にとりながら、計画・準備・実施・片付けを行う。 A (2) コロナ禍以前の儀式計画に戻しつつ、この3年間で得た物も加味しながら儀式運営を行う。 A			
		3 PTAや同窓会と連携し、教育活動の実態に応じた組織体制や活動を実現する。	(1) 両組織との連携を密にとり、関連行事を円滑に行うことで生徒の教育環境を充実させる。 A (2) PTAの組織体制や活動について、時代や実態に即した形を模索し、変更する。 B			
生徒部	生徒支援課	1 生徒の自治的・主体的行動を促す	(1) 教職員の共通認識のもと生徒の内面的自覚を促し、倫理観や責任感を醸成する。 A (2) 地域社会との共存について、モラル・マナーや倫理観を醸成する。 B	A	<p>生徒心得を23年振りに改定し、生徒・教師が一体となって見直すことができた。それに基づいて、生徒たちの自覚力や自浄作用を促し、生徒と教師の対話を通して人間教育を育んでいく必要がある。防犯や自己防衛意識の醸成とともに、生徒一人一人が安心して安全に過ごすことができる環境づくりに努める。また、危機管理マニュアルを毎回見直し、周知徹底を図る。</p>	
		2 生徒間の自浄力を高める	(1) 活動支援課と連携して生徒間の情報発信や問題提起の環境づくりに努める。 A (2) 防災教育・安全教育等により、危機管理・安全意識の向上を図る。 A			
		3 生徒が安心して過ごせる環境を守る	(1) 長期欠席等に関しては、情報の共有、早期対応に努め、外部専門機関を積極的に活用する。 A (2) いじめの未然防止・早期発見に努め、個別の事案については組織的・継続的に取り組む。 A			

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナあけで、オンラインなどの授業との上手なつきあい方を考えているところが良いと思います。 ・デジタルの長所、短所をうまく活かして時代に合った柔軟な対応を。 ・ICTを効果的な指導に活かしてほしい。
A	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校のPTAとしては、3(2)がB評価だったことは、どういった取組か知りたい。 ・PTAの改定は、PTAとコミュニケーションを図っていたら、検討していただきたい。
A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒心得の改定に生徒が主体的に関与するのは好ましい。 ・生徒の自主性が尊重され、大変素晴らしいと感じた。

福岡県立修猷館高等学校

		自己評価							
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)		次年度の主な課題				
生徒部	活動支援課	1 自治的・主体的な生徒会活動への支援を通して、修猷アイデンティティと実践的行動力を育成する。	(1) 各学校行事の意義を職員間で共有し、学校全体で生徒の自治的・主体的な活動を支援する。	A	A	生徒会活動、二大行事、部活動を通して、将来の社会のリーダーとして活躍できるための資質・能力の育成を図っていく必要がある。そのため適切な支援を行うべく、組織的に生徒の活動を支援するための課の体制づくりを進めていく。			
		2 二大行事に向けた生徒による自治的・主体的な活動への支援を通して、修猷アイデンティティと実践的行動力を育成し、新たな発想を取り入れた修猷文化を発信する。	(1) 生徒運営委員会における自治的・主体的な活動のための、教員による支援体制を整える。	A			A	コロナ前の修猷館の伝統の継承を進める必要性を感じており、それらに向けた組織的な支援体制を引き続き構築するとともに、適切な支援を行っていく。	
		3 部活動を通して、「たくましく生きる力」をもった心身共に健康な生徒を育成する。	(1) 効率的に練習時間が確保できるよう各教科、学年、分掌との連携を密にとる。	A					A
進路部	進路支援課	1 進路行事を通して進路情報を発信し、高い志を醸成する。	(1) 進路の手引きや進路説明会等を通して、進路に対する意識を強化し、高い志を醸成する。	A	A	本年度の大学入学共通テストでは十分な結果を残すことができたが、来年度には新課程対応となるばかりでなく、教科「情報」が加わるという大きな変化があるので、情報収集・分析をさらに詳細に進め、効果的な指導のための準備が必要である。また、課外・補習のあり方を再検討しつつ、受験指導に関わる問題演習量を確保できるよう各教科に要請し、大学受験への生徒の対応力を向上させていかなければならない。			
		2 テスト・模試の結果分析やデータの蓄積を行い、より良い進路支援へと繋げる。	(1) 実力テスト・修猷模試・外部模試を活用し、進路目標の実現のための実践力を高める。	A			A	・テストの結果、先生方の指導を教えたいただき、さすがと思いました。 ・生徒のやる気を引き出し、成長を促していただいた。	
		3 他の部や学年と密接に連携をとりキャリア教育の推進を図る。	(1) 学年行事や総合的な学習の時間を活用し、生徒の主体的キャリアデザインを支援する。	A					A
広報課	広報課	1 本校の魅力を、第六学区小中学校の児童・生徒・保護者はもとより全国に発信し、本校の社会的認知度を高める。	(1) 学校案内パンフレットの積極的配布などを通じて、生徒・保護者のニーズに応える情報を提供する。	A	A	本年度は、コロナ禍がある程度落ち着いたことで、小学生保護者説明会、修猷フェスト等「顔の見える広報活動」も盛況であった。ただし、参加者の数が膨らんだことで運営上の問題もいくつか発生しているため、来年度は参加者数の調整には留意すべきである。効果的な対面型の広報活動という点では、中学校訪問などにあらかじめ力を注ぐ必要も感じている。また、有効な情報発信を行うため、本校内での分掌を越えた協力体制の構築は喫緊の課題である。			
		2 小学生保護者説明会、第6学区公立高校説明会、修猷フェストの企画を更に充実させる。	(1) 本校の教育理念、教育体制および生徒の姿を来場者に伝え、本校の魅力を発信する。	A			B	・中高一貫校が増える中、小学生を対象とした広報は重要と考える。 ・広報について、情報発信というところでは、地域・校外に対する周知はもっとあって良いと思います。 ・小学生保護者説明会は、多くの方が参加できる形をお願いします。	
		3 地域や小・中学校、および進学塾との直接的な連携を重視し、相互の信頼関係の構築に努める。	(1) 学区内の中学校および進学塾との情報交換の場を設け、効果的な広報活動を目指す。	A					B
教養部	研究支援課	1 「確かな学力」を育成する授業のための教科研修を実施する。	(1) 授業の充実に資する研鑽の機会として、研究授業、相互授業参観等を活用する。	A	A	例年実施している取組は、概ね例年通りの実施形態で一定の教育効果を維持している。しかしながら、教育研究としての授業アンケートや、総合的な探究の時間での課題研究など、社会の変化に応じて変化するべき点が現状では例年通りの実施形態にとどまっていることが課題として挙げられる。教育研究では、本校の教育活動を客観的な視点から顧みるための材料としてより適切なものを、課題研究では本校の生徒が研究活動を体験することに対して適切な環境設定や教員の関わり方などを工夫することで取組の質の向上を目指したい。			
		2 教師の資質・能力の向上に繋がる職員研修の企画運営を推進する。	(1) 生徒の実態や本校の現状を踏まえた職員研修、人権研修を企画し、実施する。	A			A	A	
		3 教育研究活動の充実を図る。	(1) 本校の教育活動を俯瞰するための教育研究・調査を、継続的に実施する。	A					B
		4 総合的な探究の時間のさらなる充実に向け、各学年・各分掌との連携による運営支援を行う。	(1) 自主的・協働的な活動を通して自己教育力・相互教育力の育成を図る。	B			B	B	
	図書課	図書課	1 朝読書を軸とする読書活動を学年や他分掌と連携して学校全体で推進する。	(1) 朝読書を軸とする読書活動を学年や他分掌と連携して学校全体で推進する。	A	A			青我祭や日常の活動において、生徒図書委員たちが企画の中に全校生徒を巻き込む姿勢を示し、主体的な実践力を発揮したことが今年度の大きな収穫である。また、先生方にも年間2回の本の推薦に加えて、朝読書の時間に本の紹介をするなど、日常的にさまざまな形で読書を楽しむ雰囲気をつくっていただいている。次年度の課題は、図書委員が直接顔を合わせて話し合いを重ねることで、図書委員会が組織としての結束を強め、全校生徒に知的好奇心を刺激する企画を提示したり情報発信をしたりするように、支援を続けていくことである。
			2 しなやかな発想に満ちた、主体的な生徒図書委員会活動を推進する。	(1) 生徒図書委員が長期的計画のもとで組織的な取り組みをするよう支援する。	B		A	A	
			3 情報・メディアセンターとしての図書館機能を充実させ、メディアリテラシーの向上に資する。	(1) 各教科と連携して授業関連の情報・図書を提供し、生徒が主体的研究を行いやすい環境をつくる。	A				
		(2) 図書館のマルチメディア化と学校発行文書の電子化・図書館での保存を推進する。	A	B	A				
		(3) 青我記念館(1F・3F)の視聴覚設備や修猷資料館について適切な管理と利用の促進を図る。	B						

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策	評価項目以外に関する意見
<ul style="list-style-type: none"> 本校の教育活動の底流となっている「世のため人のため」の精神のもと、社会の一員としての意識を持たせるとともに、高い志と国際的な素養を持った信頼されるリーダーの育成に向け、常に教育活動の内容を改善していく。この全人教育は保護者の願いでもある。 教師の資質向上を図る職員研修等の手立てを実践し、今後も指導力の向上を図る。さらに、生徒一人一人を活かす行事の運営の手助けができるよう職員の共通理解や連携を図る。 新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、今後の生徒指導が変化するだろうが、適切に状況を見極め、対応したい。 	